



発行所 財団法人兵庫県消防協会 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 編集発行人 関山 巧 定価 1部44円 題字 井戸知事

火のしまつ 君がしなくて 誰がする

平成二〇年度 日本消防協会定例表彰式

平成二〇年度日本消防協会定例表彰式が、二月十三日(金)午後一時より東京虎ノ門の日本消防会館ニッショーホールにて盛大に開催されました。

国歌斉唱、消防殉職者に対する黙禱に続き、片山日本消防協会長の挨拶があり、会長から受章代表者に表彰状が授与されました。その後、内閣総理大臣の祝辞、受章者代表謝辞があり、万歳三唱により閉会しました。なお、本県の受章者・団体は次のとおりです。

(敬称略)

- 表彰旗 一団
竿頭級 三団
功績章 四二名
精績章 九四名
勤続章 一七二名
表彰旗 伊丹市消防団
竿頭級 豊岡市但東消防団
功績章 加西市消防団
精績章 上郡町消防団
勤続章 神戸市中央消防団
功績章 神戸市北消防団
表彰旗 団長 山田 洋

- 姫路市姫路東消防団 副団長 奥見 正
姫路市姫路西消防団 分団長 寺内 正義
姫路市飾磨消防団 副団長 富田 重二
尼崎市消防団 副団長 丸岡 盛夫
西宮市消防団 分団長 永田 勝樹
明石市消防団 副分団長 櫻井 充
副分団長 櫻井 充
洲本市消防団 副団長 藤本 喜代治
芦屋市消防団 副団長 神原 好喜
伊丹市消防団 部長 佐々木 信一
相生市消防団 分団長 加藤 清隆
豊岡市出石消防団 副団長 山口 進
豊岡市但東消防団 副団長 宮垣 博文
加古川市消防団 分団長 田中 康弘
赤穂市消防団 分団長 前田 守平
西脇市消防団 分団長 杉本 幸成
宝塚市消防団 分団長 梅脇 成公
三木市消防団 部長 橋本 紳一郎

- 高砂市消防団 分団長 池野 勤
川西市消防団 団員 向野 清継
小野市消防団 分団長 藤原 雅喜
三田市消防団 分団長 中田 文雄
副分団長 東良 容二
加西市消防団 分団長 常峰 一郎
篠山市消防団 副団長 尾垣 春夫
養父市消防団 副団長 中尾 敬五
丹波市消防団 副団長 村上 公司
南あわじ市消防団 副団長 片山 恭宏
朝来市消防団 副団長 中村 八郎
淡路市消防団 副団長 尾崎 博志
宍粟市山崎消防団 分団長 谷井 正信
たつの市消防団 分団長 満田 邦宏
加東市消防団 分団長 藤井 昭一
猪名川町消防団 副分団長 橋本 光彦
稲美町消防団 分団長 本岡 利行
萩野和樹

- 市川町消防団 団長 山下 善弘
上郡町消防団 団員 保村 茂和
佐用町消防団 副団長 福山 真龍
香美町消防団 分団長 福島 勉
神戸市中央消防団 分団長 白銀 敏孝
神戸市兵庫消防団 分団長 片平 隆喜
神戸市北消防団 分団長 平間 剛
村田 薫
上垣 和伸
神戸市西消防団 分団長 藤井 一
藤田 和丸
姫路市姫路東消防団 副分団長 新見 利夫
副分団長 前田 岩男
姫路市姫路西消防団 分団長 西尾 信弘
姫路市飾磨消防団 分団長 小西 治
高井 太三
姫路市網干消防団 分団長 原田 良人
西森 清孝
尼崎市消防団 副団長 西森 清孝
副団長 竹内 征三郎
分団長 竹島 義男
明石市消防団 部長 長尾 善治
後藤 英文
西宮市消防団 分団長 谷野 義昭
川原 勇
洲本市消防団 分団長 岡澤 伸祐
西田 元久
菅屋市消防団 班長 細谷 昌己

- 伊丹市消防団 部長 内堀 喜史
相生市消防団 分団長 尾川 勲
豊岡市豊岡消防団 分団長 太田 克己
豊岡市城崎消防団 分団長 北村 幸弘
豊岡市竹野消防団 副団長 杉垣 明彦
豊岡市出石消防団 分団長 杉本 武己
豊岡市但東消防団 分団長 渡邊 和志
加古川市消防団 分団長 永井 英司
西脇市消防団 副分団長 三上 悦男
赤穂市消防団 副分団長 藤原 清
中濱 三朗
神戸市西消防団 分団長 藤井 一
藤田 和丸
西宮市消防団 副分団長 新見 利夫
副分団長 前田 岩男
姫路市姫路東消防団 副分団長 新見 利夫
副分団長 前田 岩男
姫路市姫路西消防団 分団長 西尾 信弘
姫路市飾磨消防団 分団長 小西 治
高井 太三
高砂市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
川西市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
小野市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
三木市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
宝塚市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
洲本市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
篠山市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
加西市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
上郡町消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘

- 養父市消防団 分団長 片山 博文
相生市消防団 分団長 尾川 勲
豊岡市豊岡消防団 分団長 太田 克己
豊岡市城崎消防団 分団長 北村 幸弘
豊岡市竹野消防団 副団長 杉垣 明彦
豊岡市出石消防団 分団長 杉本 武己
豊岡市但東消防団 分団長 渡邊 和志
加古川市消防団 分団長 永井 英司
西脇市消防団 副分団長 三上 悦男
赤穂市消防団 副分団長 藤原 清
中濱 三朗
神戸市西消防団 分団長 藤井 一
藤田 和丸
西宮市消防団 副分団長 新見 利夫
副分団長 前田 岩男
姫路市姫路東消防団 副分団長 新見 利夫
副分団長 前田 岩男
姫路市姫路西消防団 分団長 西尾 信弘
姫路市飾磨消防団 分団長 小西 治
高井 太三
高砂市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
川西市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
小野市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
三木市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
宝塚市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
洲本市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
篠山市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
加西市消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘
上郡町消防団 副分団長 西村 清隆
坂田 義弘

- 神河町消防団 副団長 足立 勝志
太子町消防団 団員 首藤 武司
上郡町消防団 団員 高橋 重治
佐用町消防団 分団長 繁延 敏之
藤輪 英彦
赤松 儀和
香美町消防団 団員 森 喜久一郎
新温泉町消防団 副団長 山本 司
稲葉 三夫
神戸市西消防団 副分団長 山田 健一
副分団長 越生 孝雄
神戸市中央消防団 分団長 大西 一彦
角野 友彦
副分団長 吉田 豊
神戸市兵庫消防団 分団長 大崎 文雄
採田 芳博
米田 嘉彦
岩本 忠志
東野 眞二
麻野 音和
鈴木 満智男
入江 一嘉
上村 琢珠
北口 義弘
小河 宗男
小川 幸行
西井 公一
神戸市須磨消防団 部長 西田 健二
神戸市垂水消防団 副団長 中西 政嗣
部長 松本 正廣

(二面につづく)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|---|--|--|----------------------------------|---|--|---|---------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|--|---|----------------------------------|---|--|---|--------------------------------|---|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|--|---|---|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 西宮市消防団 副団長 酒井和勢 団員 田中健介 | 明石市消防団 分団長 藤田光男 班長 木下英人 副団長 辰己増美 | 分団長 吉井賢明 副団長 柳川佳明 部長 井上孝治 班長 有村照義 | 尼崎市消防団 副団長 竹内征三郎 分団長 高橋武志 班長 水畑良志 | 姫路市家島町消防団 部長 田中鉄治 副団長 桐田豊文 | 姫路市網干消防団 分団長 三輪敏之 副団長 開發康之 部長 桐田豊文 | 姫路市飾磨消防団 副団長 福島茂 部長 八幡元景 副団長 植木重年 | 姫路市姫路西消防団 副団長 大塚秀祐 分団長 西尾信弘 副団長 北澤真一 | 姫路市姫路東消防団 班長 新田博 副団長 山田和男 | 神戸市水上消防団 副団長 佐伯尚 団員 辻辰男 | 神戸市西消防団 副団長 宮本定光 団員 宮本定光 | 伊丹市消防団 副団長 岡田重男 団員 岸谷義雄 | 相生市消防団 分団長 石井宏明 副団長 山根範行 部長 山下篤 | 豊岡市豊岡消防団 分団長 青田彌一郎 副団長 山科和二郎 副団長 山科和二郎 | 豊岡市竹野消防団 副団長 仲治義信 部長 松岡喜久雄 | 加古川市消防団 分団長 岡崎清一 副団長 厚海正昭 副団長 富田宜之 | 三田市消防団 副団長 畑末公三 部長 大西忠則 副団長 国森元 | 篠山市消防団 分団長 倉守元 副団長 池田正弘 副団長 村上和也 | 養父市消防団 副団長 池田正弘 副団長 村上和也 | 赤穂市消防団 分団長 岩本先夫 副団長 小原昇 副団長 藤原隆己 | 三木市消防団 部長 常深裕幸 副団長 二井久和 | 宝塚市消防団 副団長 安部秀次 副団長 須磨英樹 | 朝来市消防団 副団長 安部秀次 副団長 須磨英樹 | 南あわじ市消防団 副団長 石原俊和 副団長 石原俊和 | 淡路市消防団 副団長 平松丈博 副団長 中山美夫 副団長 富永美明 | たつの市消防団 副団長 出田富一 副団長 名村繁利 副団長 柳生陽一 | 猪名川町消防団 副団長 畑中祥宏 副団長 前中幸宏 副団長 橋川権城 | 稲美町消防団 副団長 熊井隆毅 副団長 熊井隆毅 | 太子町消防団 副団長 田中繁幸 副団長 田中繁幸 | 上郡町消防団 副団長 日下秀樹 副団長 日下秀樹 | 佐用町消防団 副団長 小林忠芳 副団長 小林忠芳 | 香美町消防団 副団長 吉田正秀 副団長 吉田正秀 | 新温泉町消防団 副団長 西垣宏一 副団長 西垣宏一 | 猪名川町消防団 副団長 石原俊和 副団長 石原俊和 |
|-------------------------------|---|--|--|----------------------------------|---|--|---|---------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|--|---|----------------------------------|---|--|---|--------------------------------|---|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|--|---|---|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|

「団結力」

上郡町消防団長 松本 隆雄



上郡町消防団は、昭和三〇年三月に町村合併、消防団を統合し発足しました。当時、町内を旧町村単位の五地区に分けた三五分団での活動でありました。私が消防団に入団した昭和

四六年当時は、隣接する岡山県の県境に位置する二市八町二村と消防応援協定を結ぶなど広域的な消防力強化の動きの真つ只中でありました。そんな中、昭和四九年七月の集中豪雨による災害、昭和五一年九月の台風十七号による災害と立て続けに大きな災害に見舞われました。災害と言って思い出されるのは、私が団長に就任した翌年、平成十六年九月に襲来した台風二一号による集中豪雨で、二日間降り続いた雨は総雨量二一九ミリを記録しました。その豪雨で町全域に被害が続出、河川の増水により孤立した集落に逃げ

遅れた住民有りの通報を受け、咄嗟の判断により智頭鉄道の列車を動かし、無事に救助したことは鮮明に記憶しております。現在においては、団員の減少、サラリーマン化による昼間の出動団員の確保が全国的にも喫緊の課題であります。少数精鋭による新たな消防力強化に取り組んでいかなければと感じております。我が上郡町消防団の団結力強化は勿論のこと、町内自主防災組織等の地域住民との団結力強化にも努めていきたいと思っております。

消防団今昔

56

「自分たちのまちは自分たちで守る」を合言葉に

猪名川町消防団長 福田 康司



猪名川町は阪神間の北東端にあり、東は大阪府豊能郡、南は川西市、西は宝塚市と三田市にそれぞれ接し、北は篠山市に隣接しています。総面積は、九〇・四一kmにおよび、東西に八km、南北に十八km、周囲延長は七二kmに達します。

猪名川町消防団は、昭和十四年四月に発足した川辺郡中谷村と六瀬村の各消防団が昭和三〇年の両村の合併により統合され猪名川町消防団として発足し、今年で五二年が経過していま

す。当時は現在のように常備消防が設置されておらず、また資機材も十分整備されていませんでした。その中で当町の防火防災は一手に消防団に委ねられており、火災、台風などの災害に対し応ずべく団員一人ひとりが使命感と誇りを持って努力してきました。古くは昭和二八年の奥川辺・有馬水害、伊勢湾台風、また死者二名を出した昭和四七年の梅雨前線集中豪雨と、幾多の災害に郷土愛護と消防団員としての使命感をもって立ち向かっていったのです。当消防団は警防団時代を含めると非常に歴史の長い消防団ですが、時代の流れや生活環境の変化から団員の高齢化やサラリーマン化が進み、団員数の維持や昼間における出動団員の確保が課題となっております。この課題を解決するため、災害に対し即時対応できる団員の確保を進めるとともに、多くの訓練を

実施することにより更なる行動力、団結力のある消防団を目指し取り組んでおります。また、「自分たちのまちは自分たちで守る」ことを目的に、町内の各自治会で結成されている自主防災組織との連携を強化すべく、すべての各小学校区で行われている（地域が合同で実施する）防災訓練に指導的役割を担って参加しています。一人でも多くの地域住民に防火・防災の大切さを理解してもらうために、消防団員が自主防災組織を牽引し、それにより地域の防災力がアップすることを目指しています。このような活動を通じ、地域における防火・防災のリーダーとして地域防災力の高揚を図り、頼られる消防団員を目指すとともに、当消防団が地域防災のため益々活躍できることを願っています。

「消防団に入団して」

明石市消防団
第六分団中尾班

井上 健太



私が消防団の活動に目に向いたのは、地元の住吉神社の中尾青年会OBの先輩方が熱心に年末警戒を行い、さらに、見事なチームワークで役割分担をし、地域活動と仕事を両立されている姿を間近にし、消防団活動の地域における重要性と必要性

を感じたからです。そこで、自分にも何かできることはないかと入団を志望しました。

昨年から続く景気の悪化や大手企業の人員削減等、様々な問題を抱えたまま、平成二一年を迎える事となりますが、地域の方の安心と安全を目指し、消防団員としてだけでなく、人間として大きく成長し、精神面や技術面等、色々な面で飛躍できるように頑張りたいと思います。

また、消防団先輩方には、積極的に活動訓練の指導をお願いし、災害が発生した時に備え器具の点検等、できる事から消防団活動を頑張っていきたい、いつか一人前の消防団員になれるように精進していきます。

われら若手消防団員

新温泉町消防団

橋 健士



私が消防団に入ることになったきっかけは、ある先輩団員の方に声を掛けて頂いたからです。

元々ボランティア活動には興味がありましたが「会社員である自分のできるのだろうか？」と考え、何度も断っていました。しかし既に団員であった友人達に相談したりして入団することに決めました。

入団した当初はあまり気にも留めていませんでしたが、団員

南あわじ市総合防災訓練を実施

地区通信

南あわじ市消防団

今後三〇年以内に五〇〜七〇％の確率で発生すると言われている東南海・南海地震及び津波による災害に備えるため、平成二〇年一〇月十九日(日)、南あわじ市総合防災訓練が御原中学校グラウンドをメイン会場として開催されました。

地元住民や消防団員、陸上自衛隊、第五管区海上保安本部、兵庫県警察本部、淡路広域消防事務組合、自主防災組織など約一万人が参加、午前八時〇〇分

実際には火災や災害はいつ起こるか分かりません。出動時に備えて今後もより一層、普段の訓練を積み重ねて消防団の活動を頑張っていきたいと思います。



倒壊家屋からの救助



土嚢積み訓練

孤立化が予想される沼島では、今春完成したヘリポートから負傷者を搬送する訓練も行いました。また、消防団各方面隊の訓練として、火災や災害時の通信手段として有効な無線を利用した情報伝達訓練も行いました。

訓練に参加した人たちは、身近に迫っている東南海・南海地

わがまちの団長さん

157

「強力なリーダーシップ」

福崎町消防団

城谷 英之 団長



福崎町は、兵庫県の中播磨地域の中心に位置し、市川中流の両岸にひろがり、豊かな自然と日本民俗学を確立した歴史に名を残す柳田國男生誕の地で歴史と文化が漂う魅力あふれるまちです。

福崎町消防団は、城谷団長以下、副団長二名、支部長三名

震に備え真剣に取り組みされました。

南あわじ市消防団は、今後このような訓練を通じ、消防団と地域住民の連携のもとに、安全で住みやすいまちづくりに向けて取り組んでいきます。

副支部長三名、団員五九一名、消防車三台をもつて地域の安全・安心のため活動しています。

城谷団長は、平成五年に福崎町消防団に入団され、平成十六年に本団幹部として副支部長に抜擢。平成十八年からは副団長をされ、平成二〇年に団長に就任。持ち前の行動力と情熱で火災現場においては、率先して消

火活動にあたられています。団長は、いつも真剣に、何事にも積極的で、先頭に立って行動され、『俺についてこい』という心意気で団員を指導、統率していく力は、ずば抜けたものがあり、あらゆる災害現場・訓練においてリーダーシップを発揮されています。



応急救護訓練



その強力なリーダーシップをもって、昨年八月に開催された第二回兵庫県消防操法大会においては小型動力ポンプの部で、福崎町消防団を優勝へと導かれました。

普段の団長の素顔は、悩んでいる団員がいれば、親身になって話を聞き、熱く語られ、悩みを解決させるといった具合に兄貴分的な存在でもあります。

城谷団長が就任されてから早や一年が過ぎようとしています。が、これからも益々奮闘いただき、福崎町消防団を牽引し、災害から町民の生命、身体及び財産を守るリーダーとしての活躍が期待されています。

北から南から

丹波篠山築城四〇〇年祭

〜今後一〇〇年にむけたまちづくりがスタート〜

篠山市支部

篠山城は、一六〇九年（慶長十四年）に築城され、徳川家康の末子・松平康重が初代城主として入城してから今年で四〇〇年を迎えます。篠山市では、この節目の年を記念して「丹波篠山築城四〇〇年祭」と銘打って、平成二十一年四月四日から一〇月三十一日まで記念事業を行います。

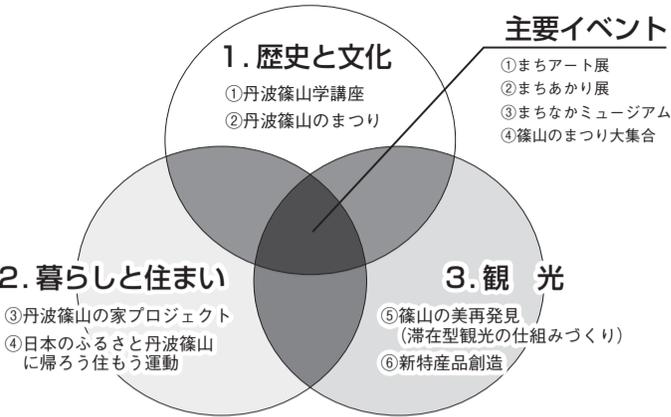
この節目の年を迎えるにあたり、われわれ篠山人（ささやまびと）が、これまでの丹波篠山の歴史や文化を振り返るとともに、日本人が忘れかけている大切な感性を再創造し、次世代につなぐ丹波篠山の暮らしをデザインします。そして、次に

なぐまちづくりのきつかけとして、二一世紀型の持続可能なまちづくりを提案するための記念事業を展開していきます。

四〇〇年祭は、単に一過性や城周辺のイベントとして終わらせるのではなく、市全域を対象として「歴史と文化」「暮らしと住まい」「観光」の三つのテーマに基づき、市民の皆さんや丹波篠山に魅力を感じる皆さんとともに「懐かしくて新しい」未来を創り上げることを基本理念としています。そこで、この基本理念を実現させるため、左図に掲げた三つのテーマと六つの小テーマに基づき展開します。

いずれのテーマも過去から受け継がれたものや再認識し、それに新しい考え方を付け加える。これを「懐かしくて新しい」「丹波篠山スタイル」とします。

築城四〇〇年祭は市民が創る市民主体のまつりとするため、イベントのアイデアなどを広く公募し、それぞれ「主催事業（実行委員会が直接行う事業）」、「協賛事業（経費の一部を助成する事業）」、「自主事業（冠を使用する事業）」として整



テーマ図



篠山の美

北から南から

「家島町消防団出初式」

姫路市家島町消防団

私たちのふるさと家島町は、姫路市街から南西約十八kmの播磨灘に浮かぶ大小四〇余りの家島諸島で構成されています。

瀬戸内海国立公園にも指定される美しい景観と澄んだ海を持ち、海水浴や釣りを楽しむ人、新鮮な魚介類を求める人でにぎわっています。

家島町は、離島という地理的条件のため、消防活動等において他地域からの応援が難しく、四分団、定員一七〇名体制はもとより、住民、地域自治会の協力のもと、出火から鎮火まで地域一丸となり自己完結型の活動

理しました。このほか、四〇〇年祭にかかわってみたい、応援してみたい、そんな方たちの人材（ボランティアスタッフ）登録も進めています。

また、去年の四月には四〇〇年祭の情報発信と交流の拠点として、「まちづくりポケットこらぼ」を篠山市民センター内に開設。互いの情報を交換する「情報スペース」、ホンモノの篠山の魅力を展示する「展示スペース」、市民の皆さんや各種団体などが四〇〇年祭について話し合う「交流スペース」を設置し、四〇〇年祭に向けて本格的にスタートしました。

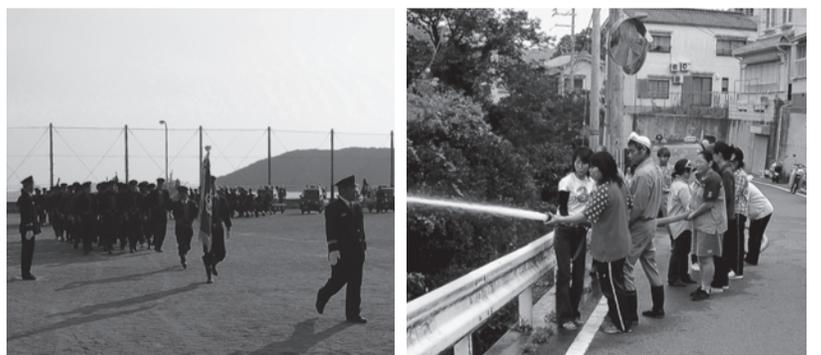
そして忘れてはならないのが、丹波篠山築城四〇〇年祭

に際し、丹波篠山らしさを表現し、子供から大人まで親しみを持てるものとするため、地元の小・中・養護学校生から公募を行い、決定されたマスコットキャラクターです。応募作品は、一、二、三、七点が寄せられ、最優秀賞に輝いた「イノ丸」に一部修正を加え、「まるいの」と命名しました。是非一度足を運んでみてください。



公式マスコットキャラクター「まるいの」

われわれ篠山市消防団は、この歴史と文化ある丹波篠山の地を守り、篠山の自然や、まちなみの美しさを次代に残していけるよう、今後も頑張っていきたいと思います。



出初式行進

住民指導



平成21年1月17日家島町消防団出初式一斉放水

また、平成二十一年一月十七日（土）に姫路市家島町坊勢の坊勢スポーツセンター内で家島町消防団出初式を挙行了しました。普段の訓練で培った団員の一条乱れぬ入場行進や、海に囲まれた島の特性を生かし海岸線に水利部署した小型ポンプから一斉放水を行い、地域住民に消防団員の士気の高さを披露しました。

家島町消防団は、これからも地域に信頼される消防団を目指し、地域防災のリーダーとして、家島町の安心・安全のため様々な活動を続けていきます。

立春とはいうものの、まだまだ肌寒い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、今月号では平成二〇年度日本消防協会定例表彰について掲載しております。また、消防団今昔には上郡町消防団長松本隆雄さん、猪名川町消防団長福田康司さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

今年もインフルエンザが流行する時期がやってきました。今年はAノ連型が多いそうです。うがい手洗いはもちろん、予防のためにマスクをしている方も多く見られますが、火災とおなじく未然防止に努めたいですね。

「兵庫消防」は皆様の寄稿をお待ちしております。各地域での催し物やニュースがありましたら、是非ご紹介ください。

「こんにちは！兵庫の消防団です」



<http://www.hyogoshoubou.jp/>

編集後記